

まちづくり交付金 事後評価シート
荒川本郷地区

平成20年12月

茨城県阿見町

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	茨城県		市町村名	阿見町		地区名	荒川本郷地区			面積	274ha		
交付期間	平成16年度～平成20年度		事後評価実施時期	平成20年度		交付対象事業費	3,077百万円		国費率	0.4			
1)事業の実施状況	事業名												
	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	街路事業(荒川沖・寺子線、南大通り線、センター通り線)、道路事業(町道第7649号線外1)、地域生活基盤施設(ポケットパーク)、高質空間形成施設(歩道照明灯)、土地区画整理事業(本郷第一地区)										
		提案事業	なし										
	削除/追加の理由												
	削除/追加による目標、指標、数値目標への影響												
当初計画から削除した事業	基幹事業	なし											
	提案事業	なし											
新たに追加した事業	基幹事業	なし											
	提案事業	なし											
交付期間の変更	当初	平成16年度～平成20年度		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響									
	変更												
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値		目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値						
	指標1	渋滞率(混雑度)	%	2.90	H15	2.03	H20		2.03	○	あり	評価時点では基幹事業の都市計画道路は未完成であるが、関連事業である都市計画道路荒川沖・寺子線の一部及び西部中央通り線が供用開始され道路網の一部が構築されたことにより、既存幹線道路の渋滞率解消に効果があった。基幹事業の都市計画道路開通後は更なる利便性向上が見込まれる。	H21年10月頃
	指標2	歩行者・自転車数	人/12h	326	H15	424	H20		1,447	○	あり	基幹事業である都市計画道路荒川沖・寺子線及び南大通り線は未完成であるが、関連事業である荒川沖寺子線の一部及び西部中央通り線の歩道の整備された幹線道路が供用開始したことにより、地区内の歩行者・自転車数増加に効果があった。	H21年10月頃
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値		目標値		数値		目標達成度※1	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値						
	その他の数値指標1	既存幹線道路(町道第0103号線)の歩行者、自転車数	人/12h	130	H15				172			指標2の相乗効果で既存幹線道路についても増加したと考えられる。	H21年10月頃
その他の数値指標2	建築戸数	戸	22	H16				132			本郷第一区画整理事業や幹線道路等の整備によって新市街地における住宅地としての基盤が形成されたことにより、住宅の着工件数が順調に伸びている。		
4)定性的な効果発現状況	なし												
5)実施過程の評価	実施内容			実施状況				今後の対応方針等					
	モニタリング	なし		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった									
	住民参加プロセス	景観審議会及び景観形成道路説明会の実施		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				● 今後も住民参加を主としたまちづくりを推進するため、説明会等を適時実施していく。					
	住民参加プロセス	土地利用協議会の実施(協議会の代替として、荒川本郷地区説明会・まちづくり意向調査を実施)		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				● 今後も住民参加を主としたまちづくりを推進するため、説明会等を適時実施していく。					
	持続的なまちづくり体制の構築	荒川本郷地区まちづくり検討委員会		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				● 今後の良好なまちづくりを推進していくため継続的に実施していく。					

様式2-2 地区の概要

荒川本郷地区(茨城県阿見町) まちづくり交付金の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標		従前値	目標値		評価値	
区画整理内外を一體的に捉えた道路網の改善を図り、交通機能の向上による利便性・安全性の高い快適なまちづくりを図る。	渋滞率(混雑度)	単位: %	2.90 H15	2.03	H20	2.03	H20
	歩行者・自転車数	単位: 人/12h	326 H15	424	H20	1,447	H20



まちの課題の変化	都市計画道路が整備され、地区内の交通網が改善されることにより、既存幹線道路である町道第0103号線の渋滞の解消、利便性の向上が図れた。また、歩道が設置されたことにより安全性向上が図れ歩行者等が増加した。
今後のまちづくりの方策(改善策を含む)	都市計画道路の整備により既存幹線道路における渋滞解消などの効果はあったが、圏央道インターチェンジの開通に伴う交通量増加等により依然渋滞率は高く、地域内についても狭小で未整備な生活道路が多く、日常的な住民生活に支障をきたすなど課題が残っている。また、当地区は居住・商業空間を担う中心市街地の位置づけにありながらアクセスが弱いことから、新しい定住や商業施設の充実などまちづくりの活性化に大きな影響を及ぼしている。これらの問題を改善するために、広域的な幹線道路網の整備や良好な居住環境の形成が必要である。